

諏訪実業高校 全日制 令和7年度 学校評価表(自己評価)

学校番号47 長野県諏訪実業高等学校

Table with columns: 学校目標, 重点目標, 今年度の重点目標, 成果と課題, 総合評価, 対象, 評価項目(具体的活動目標), 評価の観点, 成果と課題, 達成度 (A, B, C, D), 改善策・向上策. Rows include 生徒指導, 教育相談, 平和人権, 保健, 整美, 校友会, and 部活動.

584	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
動	II 進路指導 ・ 進路指導係	1 進路意識の高揚および早期確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣、学習習慣の確立 ・ キャリアデザインに向けた進路行事の実施(諏訪実ミニメッセ、経営者と語る会、インターンシップ、各種講演会) ・ 面談を通じての状況確認、意識向上 ・ 卒業生の講演会による意識づけ(「先輩の話を聞く会」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各進路行事にて、事前学習で目的を確認し振り返りを行うことで、進路について考える機会を各学年複数回持つことができた。 ・ 授業への取り組み姿勢が、学期が進むにつれて不十分になる生徒が見られる。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業について、取り組み姿勢の再確認と、教員の指導の工夫を検討中である。
		2 進路保障	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人および保護者が納得する進路選択(進路希望とその実現) ・ 企業研究会、企業見学会の機会保障 ・ 入試に向けた個別支援 ・ 面接練習の充実(全職員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が希望する進路を実現するために、進路室、担任との面談を折に触れて複数回行い、生徒の希望を確認した。 ・ 就職について、ミスマッチを防ぐ観点からも、会社見学をできるだけできるように調整できた。 ・ 進学者の個別支援が、入試直前になってしまう生徒もいた。指導の流れを再検討する。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集が少ない、偏っている生徒のフォロー体制を検討する。
	III 学習指導 ・ 進路指導係	1 基礎学力の習得 意欲・関心の喚起	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習習慣の確立 ・ 授業態度、授業に臨む姿勢の指導 ・ 学習理解度の把握と定着への継続的指導 ・ 基礎学力診断テストに向けた取り組み、事後活用 ・ 朝学習週間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎力診断テストの受験について、事前指導を丁寧に行った。学習意欲が出たり、良い結果が出るようになった。 ・ 授業改善に向けて、取り組み中。 ・ 朝学習習慣について、学校全体で共有出来ればよかった。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎力診断テストの利用や基礎学力向上について、国数英の3教科と連携して取り組む。
		2 21世紀型学力の養成 新教育課程の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目指導法の研究と実践 ・ シラバスの検証 ・ 昨年度の反省を踏まえた教育課程表の見直し及び学習集団の再検討 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、シラバスに基づいた授業と評価を行った。 3年選択科目については、教員の定数を事前に管理職と確認の上進めていたが、確認が不十分だったため予想以上に時間が掛かってしまった。 また、実態に合わせて再度教科の見直しが必要である。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 新課程で3年間取り組んだ内容を検証し、各教科で来年度のシラバスを作成していきたい。 ・ 定数を踏まえた教育課程について各教科で検討をすすめ、委員会が提案していきたい。
		3 観点別評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の実践研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の研究については実施できなかった。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の実践研究にあたるべき部署を明確にし、連携を取りたい。
	・ 教育課程委員会	2 21世紀型学力の養成 新教育課程の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目指導法の研究と実践 ・ シラバスの検証 ・ 昨年度の反省を踏まえた教育課程表の見直し及び学習集団の再検討 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、シラバスに基づいた授業と評価を行った。 3年選択科目については、教員の定数を事前に管理職と確認の上進めていたが、確認が不十分だったため予想以上に時間が掛かってしまった。 また、実態に合わせて再度教科の見直しが必要である。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 新課程で3年間取り組んだ内容を検証し、各教科で来年度のシラバスを作成していきたい。 ・ 定数を踏まえた教育課程について各教科で検討をすすめ、委員会が提案していきたい。
		3 観点別評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の実践研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の研究については実施できなかった。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の実践研究にあたるべき部署を明確にし、連携を取りたい。
	・ SPH後継事業推進委員会	4 SPH後の地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で活躍する方々の講演会 ・ 職業探究授業の実践 ・ 地域を舞台にした探究活動についての発表会 ・ コーディネーターの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諏訪市役所の方にお越しいただき講演を聞く中で、地域の良さや課題を再認識することができた。 ・ 地域で活躍する方々の講演を行った。地域の課題を見つけた課題解決を目指し、活動する方々に関心を持ち、生徒自らも課題発見と解決に向けた取り組みに意欲を持つことができた。 ・ 学習成果発表会で、代表生徒が発表することができた。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表を計画したが、日程の変更で中止となってしまった。実施時期を早く、各講座の進捗状況などの共有が必要である。 ・ 年度末に探究発表会を実施しているが、学習成果発表会に盛り込むのか、今後検討が必要である。
		1 専門教育の改善・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 ・ 社会人基礎力や専門性を高める授業の実施と学習支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生は来年度以降のコース選択について、面談を重ねコース選択することができた。自分が学習を深めたい分野について、今年度以上に意欲的に学習を深めることができたと考える。 ・ また、新学習指導要領実施と並行して実施した教育課程が1周し、今年度から2周目となる。コースの特色が出せるよう改善を続けたい。 ・ 多様な生徒の能力に応じた授業の展開や講座編成、補習の実施や外部機関の講座利用など継続的な課題である。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 何のために商業科目を学習するのかをきちんと説き、普段の学習はもとより検定やコンテストなどにも積極的に挑戦させ、次のステップとサイクルを回しているような習慣づけを行う。 ・ 卒業後の自分の姿を描いていない生徒が多い。ビジネス基礎やビジネス・マネジメントを中心に、将来社会に出た時をイメージさせて自分事ととらえられる意識付けを行う。
	商業科	2 資格取得の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種検定を利用した学習意欲の向上 ・ 進路活動を意識させた検定取得の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各検定を受験する生徒数は例年と同水準であるが、上位級の合格者は減少傾向にある。授業内容の関連付けを強化するとともに補習や外部講座等を活用して意欲を高めていく。ただし、検定のみにならない指導も同時に継続していく。 ・ 進路活動に間に合うように検定取得を促してはいるが、1・2年次の上位級への挑戦はまだまだ足りないと感じる。3年間を通じた検定取得計画をきちんと考えさせたい。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で一斉受験している検定や受験級を見直す。また、生徒が主体的に受験を希望するような雰囲気づくりや意欲の達成を行う。 ・ 高大連携協定を結んでいる学校の開講講座の活用を促進し、資格取得のみならず更に発展した学習をするための進路活動へ結びつける。
3 地域との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種取り組みの継続と発展 ・ 諏訪地域の文化・伝統をビジネスに活かす授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諏実タウンについては、新しい部署の立ち上げや再編統合などを行い効率よく運営することができた。また、服飾科と共同して諏実タウンを運営することができ学校行事として前進した。営業では他校から仕入販売を行い、フード課では地元食材を使ったメニュー開発、キッズ課では小学生の社会体験の補助など様々なところで地域の方々と繋がりながら学習を展開することができた。 ・ 諏実探究におけるデュアルシステム、松本山雅と連携した企画運営、諏訪東京理科大学の授業見学、長野地方検察庁の出前授業など積極的に導入している。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ その年度単発で終わることが多く、上級生と下級生が絡んで学習する機会がほとんどない。諏実タウンや諏実探究などにおいても下級生が日常的に協働学習を行うことができてよい。 ・ キッズビジネスタウンとしては小学生に、出前授業では中学生に、商品開発等では地域企業に、生徒の学習のみならず情報発信も兼ねて活動している。開拓をすすめて裾野を広げていく。 	
1 専門教育の改善・充実		<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 ・ 社会人基礎力や専門性を高める授業の実施と学習支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習成果発表会を3年間の学びの集大成と位置づけ、1年次からの専門科の学習はそこに行きつくものとして、全ての学びが重要であるという理念のもとに指導することができた。 ・ 生徒により学習に向かう姿勢や技能に差があること、被服が専門である教員の確保が難しいため、教育課程やコースの在り方の検討が必要 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導理念は継続していきたい。 ・ 授業作品や検定実施科目、教育課程、コースの検討を進めていきたい。 	
服飾科	2 資格取得の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種検定を利用した学習意欲の向上 ・ 進路活動を意識させた検定取得の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭科技術検定和服1級合格者11名、洋服1級合格者11名。うち2冠10名。これから受験する生徒もいるため、人数は変更になる。 ・ 色彩検定受験者前期1名、後期1名 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 色彩検定は受験料が高額であることと、前期が文化祭の翌日であるという時間的な問題があり、受験者が激減しているが、受験者が増える工夫をしたい。 	
	3 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種取り組みの継続と発展 ・ 諏訪地域の文化・伝統を活かす授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諏訪大社の縁起物のデザインは、継続して行えた。また、今年度は諏実タウンにファンクション課を設置し、手づくりの商品を販売したり、体験コーナーを作ったが、地域の方からの資料の寄付や、貸衣装専門店からのドレスの寄付が大変ありがたかった。廃プラスチックを活用したアクセサリー製作のため、諏訪湖周辺や学校周辺のゴミ拾いも行えた。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方からの資料の寄付は、大変ありがたく、生徒たちもかなり助かっている。様々な形で支えていただいている地域に、少しでも貢献できるような活動をさらに考えていきたい。 	
	1 学校活動全般の企画・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報把握および関係部署間の調整、対応 ・ 業務の整理、改善 ・ 校務支援システムの活用および情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて、情報把握・連絡調整を行った。校務支援システムは良く活用されている。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も様々な情報や要望を聞きながら進めていきたい。 	
II 地域連携	2 広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校案内、学校要覧の発行 ・ HPおよびマチコミメールの活用 ・ 中学生体験入学を含む開放事業の周知・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校案内は様式変更をし、発行が遅くなったが、本校の様子が広く伝わるものになった。学校説明会では、授業見学会に併せて中学生が居た。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校説明会後に授業見学会という順番に変更予定。 	
	1 近隣へのボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境美化の推進: 整美委員会を中心に学年(学級)単位で通学路のゴミ拾い・除草を行う。(整美係) ・ 交通・生活・行動困難者への配慮と協力 ・ 警察・ボランティア団体との連携活動(防犯登録・施設調査と改善呼びかけ)(生徒指導) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年3回の校舎外清掃にて、普段手の回らない、敷地内草取りや、グラウンドの石拾い、外周・通学路のゴミ拾い、泥さらい、窓ふきを行った。 ・ 交通指導については夏休み明けに諏訪警察署の交通課に講演を行っていただいた。交通法規の改正などの周知を行うとともに、自転車等の迷惑行為や危険性をお話しいただいた。本校の学校行事である文化祭や義演販売実習等の際には部外者の侵入を未然に防ぐために学校周辺のバトロールをお願いした。自転車の防犯登録については年度当初に確認しその後立ち番等で呼びかけを行った。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 窓ふき用のモップが古くなり使用に支障が出たり、泥さらい用の脚簾の追加など用具の充実が必要と感じる。生徒はやる気はあるため、道具がそろっていれば積極的に活動に参加してくれる。 ・ 外部との連携には係が窓口となるため、職員の教員としての経験の差が大きく影響していると考えられる。円滑な連携を模索するため、係の中での引継ぎ等の時間をしっかりと確保する必要がある。 	
学校運営	2 高校大学等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係大学との研究協議・実践 ・ 授業体験への参加およびかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松本大学との連携(松大チャレンジ) 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者の募集の工夫 ・ 校内分野別説明会への参加呼びかけ、進路や担任が早めに進路希望を把握する。 	
	3 企業等との連携 ・ 進路指導係	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップ、諏訪実ミニメッセ、経営者と語る会 ・ 企業勉強会、企業説明会の推進 ・ 2年工場見学(諏訪市との連携) ・ 内生生徒と採用担当者との面談 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の方や各団体の皆さまのご協力で、生徒は企業について知る機会を多く持つことができた。それぞれの機会を各生徒の自分事とできるよう、工夫したい。 ・ 学校外の社会人と関わる機会を通して、進路を考えるうえで生徒の成長につながった。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生の定着状況、活躍状況について、さらに企業の方と情報共有できるようにする。 	
	4 中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他地区を含む中学校訪問等(教務) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望する中学校が多かったが、多くの職員で分担して対応した。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き実施していきたい。 	
	※ 専門科以外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係大学との研究協議・実践 ・ 授業体験への参加およびかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松本大学との連携(松大チャレンジ) 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者の募集の工夫 ・ 校内分野別説明会への参加呼びかけ、進路や担任が早めに進路希望を把握する。 	

(注1) 各学年は、関係の分掌と連携し、目標設定および評価に加わる。

(注2) 学校評価委員会が取り扱わない領域及び対象領域の重点目標(活動目標)についても、各分掌で年度当初に基本方針を提案し、反省委員会(1月)に成果と課題および改善策・向上策を提案する。

学校目標		今年度の重点目標						
1 学校におけるあらゆる教育活動を通して、社会的資質の向上、キャリア能力の育成、個性の伸張を図り、真に豊かな教養と実践力を持つ社会人の育成を目指す。 2 学力を保証し、人間的成長を保証し、進路を保証する高校を目指す。		1 専門分野を学ぶ意欲の醸成と基礎学力の定着 2 豊かな心から生まれるビジネスマナーの育成 3 地域社会を愛し活躍できる人づくりと進路の保証						
		今年度の重点目標 1 生徒が「実社会で信頼される人間」として自立し、進路実現を果たせるよう努めます 2 相手を尊重し、自己を肯定できる、丸く豊かな心を育てます ① いじめ・暴力のない安心・安全な学校をつくります ② 授業を大切にし、生徒の基礎力を専門性を伸ばします ③ 他者と協働し、新しい創造を発信して、地域に貢献できる人材づくりを進めます ④ 生徒に、共通性を持たせ、わかるように伝え、共感的に関わるように努めます ⑤ 時間を守り、時間を有効に活用することができる生徒を育てます ⑥ 身だしなみを整え、あいさつと清掃を進んで行う生徒を育てます						
総合評価	前年度の課題をふまえて焦点的な取組がなされており、敬意を表します。また諏訪タウン等伝統的な行事についても充実が図られ、すばらしいと思います。多様な中学生がお世話になっております。これまでも増して生徒一人一人に寄り添っていただきますように、また、生徒の主体性が発揮できる取組が増えていきますようにご期待申し上げます。よろしくお願ひします。 諏訪タウンは両科の連携の工夫が見られ諏訪らしさがあり、この様な特色ある学校のPRの工夫が必要ではないでしょうか。良さが多くあるのに入学生が減っているのは残念です。ファッションショーに中学生も招待するなどできないでしょうか。多感な時期の高校生ですが、メリハリある指導を期待します。 B評価としたものについて、A評価となるよう更なる取組を期待します。A評価であっても引き続き維持できるよう努めて下さい。今年の学習成果発表会は商業科の発表もあり大変良かったです。諏訪実の学びを多くの人に届けるをもつてもらえるよう来年以降もより充実した発表を期待します。 学校評価表よりほとんどの項目について達成(A・B)出来ていると評価致します。今後もSNSを使用した悩みや相談出来る環境づくり、交通変更(自転車)ルールに伴う指導は改めて必要かと思ひます。							
領域	対象	評価項目	A	B	C	D	ご意見	
教育活動	I 生徒指導	生活指導係	1 社会的資質・規範意識の向上		67	33		少人数の利点を生かしながら生徒とのコミュニケーションを密に図っておられるところがすばらしいと思います。また、校友会と連携して校則等について検討を始めることもすばらしいと思います。地域の厳しい意見もあり先生方のご苦労は絶えないと感じます。多方面の協力いただきながら、先生方の心のケアも必要だと考えます。また、メリハリのある指導・生徒指導の先生だけでなく、関わる先生も変えながら(連携)健全な指導をお願いします。
			2 健全育成		67	33		
		教育相談係	3 相談と支援		67	33		タブレット等による相談フォームの取組もすばらしいと思います。また、先生方間の情報共有もすばらしいと思
			4 人権意識と仲間づくり		33	67		
		保健係	5 健康・安全教育		67	33		
			6 校舎内外の美化の推進			100		
		校友会係	7 校友会活動の充実		33	67		生徒を中核に据えて活動を仕組まれているところもすばらしいと思います。役員の生徒は大変一生懸命に活動する姿が見られます。校友会を通じた学びは社会に出て役に立ちます。主体性を大事に、引き続きお願ひいたします。
			8 部活動の充実		33	67		
	II 進路指導	進路指導係	1 進路意識の高揚および早期確立		33	33	33	今後も地域企業を支える人材となっていくように、定時制のように今以上にアルバイト等を推奨して、地域社会におけるOJTを進めていければいいでしょうか。進路が決まらず卒業する生徒が、とのお聞ひします(以前)。将来像が描ける指導をよろしくお願ひします。生徒が希望する進路の実現に向けて引き続きお願ひします。
			2 進路保障		67		33	
		進路指導係	1 基礎学力の習得意欲・関心の喚起		33	67		限られた授業時間で先生方も大変だと感じました。
			2 21世紀型学力の養成 新教育課程の検証			100		観点別評価の研究にあたっては、中学校の既存のものが参考になるかもしれません。ご要望があれば合同研修等を企画いたします。
	III 学習指導	教育課程委員会	3 観点別評価			33	67	
			4 SPH後継事業推進委員会		33	67		
IV 専門科	商業科 会計情報科	1 専門教育の改善・充実			100		「生徒にとって」魅力あるコースづくりとなるのが肝要かと思ひます。上級生・下級生間の交流推進についても中学校の取組が参考になるかもしれません。よろしければ行事等の日程をご案内します。専門分野も多様化し、より専門性が求められていると外部講師・地域企業との連携協力も必要と考えます。今年度の諏訪タウンは工夫され大変良かったです。来年度をさらに期待します。取得した資格は就職や進学の際、有利になることから、積極的な取得に取り組んで欲しい。特に日商検定。	
		2 資格習得の促進		67	33			
		3 地域との連携		67	33			
	服飾科	1 専門教育の改善・充実		33	67		諏訪タウンが服飾科も協働で行えたこと、大変すばらしいと思ひます。生徒の懸命な活動に多くの人が応援していると感じます。その期待に応えるよう、引き続きお願ひします。学習成果発表会は今年も素晴らしい出来で生徒の成長が伺えます。引き続き指導下さい。諏訪タウンでの手芸コーナーは新たな取組で良かったと思ひます。	
		2 資格習得の促進		67	33			
		3 地域との連携		67	33			
I 教務係	I 教務係	1 学校活動全般の企画・運営		33	67		学校見学会で授業見学会後に帰ってしまう中学生がいたとのこと、申し訳ありませんでした。改善策を来年度に活かしていただきたいです。中学生に向けて本校への入学意欲を上げるPRの工夫など新たな取組を希望します。	
		2 広報活動の充実			100			
	III 地域連携 ※専門科以外	1 近隣へのボランティア		33	67		自転車における交通ルールの徹底、講演だけでは無く簡易テストのものなど取組の強化を希望します。インターンシップは就業意欲の向上につながるので引き続き生徒の希望を聞きながら拡充して下さい。	
		2 高校大学等との連携			100			
		3 企業との連携		67	33			
4 中学校との連携		33	67					

※評価の数値は%